

# 令和7年度陸修偕行社 慰霊祭ご遺族代表挨拶

中川 聖



親族です。(編集委員会)

中川 聖様  
は、終戦の年、  
第1総軍司令  
部で自決され  
た吉本貞一元  
陸軍大将のご

今から80年前の昭和20年9月14日に市ヶ谷台の上において自決した陸軍大将吉本貞一の遺族を代表して、先の戦争の原因とその特筆すべき点を振り返りながらご挨拶をさせていただきます。

日本は、今から84年前の昭和16年12月8日に、米英に対して宣戦布告を行いました。その直接の原因は、連合国軍最高司令官のマッカーサー元帥が回想録で述べているように、アメリカが日本に行った経済制裁にあつたと思います。

では、アメリカは、なぜ日本に対して経済制裁を行ったのでしょうか。

その理由は、イギリスとフランスが昭和14年9月3日から開始したドイツ軍との戦いに苦戦していたことにありました。このためイギリスのチャーチル首相は、アメリカのルーズベルト大統領にヨーロッパ戦線に参戦するように依頼しましたが、当時のアメリカにはヨーロッパの問題には介入しないことを謳った「モンロー主義」という原則があつたことから、ルーズベルト大統領は、この原則を破るためにドイツやイタリアと軍事同盟を結んでいる日本に目をつけ、日本に軍事的、経済的な圧力をかけ、日本から先に攻撃を仕掛けさせることで交戦状態を作り、それを理由にドイツやイタリアと戦争を行う計画を立てました。

こうして日本は、死中に活を求めて、世界最強の国家に戦いを挑むことになるわけですが、この戦争は、生存確保のために行ったやむを得ざる自衛行為であるとともに、数世紀に及ぶ西欧列強の植民地支配からアジアを解放して、大東亜共栄圏を実現するというアジア民族の生存を賭けた戦いでもあつたわけです。

ところで、この戦争の中で特筆すべき点は、陸軍中野学校出身の特務

機関員たちが東南アジア各地で結成した独立義勇軍と陸海軍協同の特攻作戦だったと思います。独立義勇軍は、終戦後、東南アジアに再び植民地化を目指して侵攻してきたイギリス、フランス、オランダの軍隊を残留日本兵とともに駆逐し、独立を実現しました。

一方、陸海軍の特攻攻撃はアメリカ軍を心の底から脅えさせ、損害が著しいために、一時沖縄上陸を諦めようとしたほどアメリカ軍に大きな脅威を与えたことは、あまり知られていません。

ところが、戦後の日本の歴史教科書では、この戦争がアジア諸国を侵略した西欧列強に対する「解放戦争」ではなく、いつのまにかアジア諸国に対する「侵略戦争」になってしまつたわけです。どこの国の歴史教科書でも自国の戦争を弁護して書くものですが、戦後の日本の歴史教科書だけは、自国の誇りを奪うような書き方をしていると思います。このような歴史教育をしている国は、世界広しといえども日本だけだと思いますが、この背景には、戦後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）が実施した「ウォー・ギルト・インフォ

メーシヨン・プログラム(WGIP)の名で知られる日本人に対する「戦争犯罪情報宣伝計画」があったことを忘れてはならないと思います。

GHQは、日本が再びアメリカに立ち向かってくるのではないように、日本人の左翼的な教育者や大手マスコミを利用して、日本がアジア侵略を行ったというコンプレックスを子供たちに持たせ、日本人から大東亜戦争に対する自信と誇りを奪ってしまおうという計画を立てたのでした。

実は、GHQが昭和21年5月から実施した東京裁判も、この計画の一環として行われたものであったのです。

以来、日本は、80年もの間、主権のない国家になってしまったわけですが、アメリカのスタンフォード大学で日本近代史と日本帝国史を研究したピーター・ドウスという教授は、その著書『帝国という幻想』(青木書店、1998年)の中で、日本人が行った大東亜戦争は、「白人から奴隷にされる脅威を排除して『白人の優越』を覆した。そのスケールは、平民を解放したフランス革命よりも、労働者を解放したロシア革命よりも、遥かに壮大な人類史上の大革命だった」と述べて、大東亜戦争の世

界史的意義を高く評価しています。

一方、戦後、フランスの文化大臣や駐日フランス大使を務めたアンドレ・マルローという作家は、「日本は太平洋戦争で敗れはしたが、そのかわり何ものにもかえ難いものを得た。それは、世界のどんな国も真似のできない特別攻撃隊である。私は、祖国と家族を想う一念から恐怖も生への執着もすべて乗り越えて、いさぎよく敵艦に体当たりした特別攻撃隊の精神と行為の中に、男の崇高な美学を見るのである」と述べて、特攻隊員の崇高な自己犠牲の精神を讃えてくれています。

このように、日本人が世界から尊敬されているのは、日本人がお金をたくさん持っているからでもないし、高度な技術力を持っているからでもないと思います。それに勝るとも劣らないものとして、サムライの精神力を持った日本人を認めているからだだと思います。日本民族は、有史以来の大戦争で実に300万人以上もの人命を失って、文字通り死力を尽くして戦いました。にもかかわらず、靖國神社の英霊を「犬死」だとか「アジア侵略の手先」だとか言っているはずがありません。

この80年間に「大東亜戦争」の真実や「東京裁判」を実施した「戦争犯罪情報宣伝計画」の正体が次第に明らかになってきました。日本人は、15世紀中頃から続く西欧列強による「侵略の世界史」を大きく転換させた大東亜戦争とアメリカ軍が心から恐れた陸海軍の特攻隊に対して、もっと大きな自信と誇りを持たなければならぬと思います。そして、そのことをこれから生まれてくる子孫に伝えていかなければならないと思います。それが日本再生の一番の近道になるからです。

少し長くなりましたが、以上をもちまして、私の挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。

## 広告目次

(株) セレモア	表紙 4
(株) 東京都民互助会	表紙 4
(株) 武蔵富装	17
信和株式会社	39
(株) 和泉家石材店	45
(株) 全国儀式サービス	60

本誌へ広告掲載をご希望の方は、事務局へご用命下さい。

安心・安全・真心

いのち  
兵士の生命を護り  
災害に備える

しんわ

信和株式会社

代表取締役 田中宏明 (賛助会員)

TEL 03-6228-1326

FAX 03-6228-1329

## 防護用品

スリーピングバッグ、簡易ベッド

レスキューベスト、搬送マット